

<参考資料>

株式会社ボーコンセプト・ジャパン 青山日本支社本社オフィス

「HYGGE OFFICE (ヒュッゲ・オフィス)」の概要

オフィスづくりにおける課題

1. **3拠点の統合:** 経理、総務、カスタマーサービス、法人事業部など、オフィスを起点に働く部門のオフィスが、港北・青山店舗内のショールームを挟む形で2か所に分散されていて、部門間のコミュニケーションがしづらかった。
2. **持続的な成長のための人材確保:** 継続的な成長を続けるため、よりよい人材の確保を目指しており、そのためには企業理念やデンマークの文化を反映したよりよい働く環境の整備によってES(Employee satisfaction)の向上が必須であると考えた。
3. **B2B 成長のためのショールーム機能(LIVE OFFICE):** BtoC 向けの店舗展開となっているため、法人事業の認知度が低かった。事業を飛躍的に拡大させるため、法人向けの商品、サービスを体現できる場が必要だった。

具体的施策

① HYGGE OFFICE (ヒュッゲ・オフィス) 開発面での施策

社内プロジェクトチームを編成し、課題の洗い出し、コンセプト設定、設計コンペ、内装設計を全社横断プロジェクトとして実施し、空間づくりにおいては、以下の3つのコンセプトをキーワードとした。

● BLOCK ZONING (ブロックゾーニング)

通常オフィスはひとつながりの大空間だが、住宅ではそれはあり得ない。住宅では限られた空間の中に壁があり、コーナーがあり、そこにソファが置かれ、花瓶が置かれ…とあらゆる世界観が表現されている。そのような住宅の考え方と同じように、ボーコンセプトのオフィスではあえて視線が程よく遮られる位置に壁を多く設けることで、ブロックごとのゾーニングを行い、一般的なオフィスの大空間にはない居心地の良さを実現している。

● POCKET SPACE (ポケットスペース)

ブロックゾーニングを行うことで空間と空間の隙間に新たに生まれた空間のことをポケットスペースと呼ぶ。例えば、コの字に囲まれたスペースやコーナースペースなど。その空間は様々な機能と表情を見せることができると同時に、家具を引き立てる最適な場所となっており、ボーコンセプトの世界観、ボーコンセプトの家具の魅力を最大限に

引き立たせることができる重要なエリアである。

● HOMELIKE OFFICE (ホームライクオフィス)

住宅とオフィスでは空間の構成の仕方が全く異なり、従来であれば、住宅には住宅用の家具を、オフィスにはオフィス用の家具を、と分けられているが、Live Office では、そういった家具の垣根はなく、執務スペースにソファがあったり、オフィス用昇降デスクのすぐ横にソファで構成したコミュニケーションスペースがあったりとオフィス家具と住宅用家具がミックスして配置されている。上記のキーワードに基づく空間構成によって、家のような居心地のよい空間づくりのベースが作られ、そこにボーコンセプトの家具を最適に配置することによって「暮らすように働くことのできる、居心地の良いオフィス」を実現している。

② HYGGE OFFICE (ヒュッゲ・オフィス) 運用面での施策

上記プロセスにて開発したヒュッゲなオフィス空間で、「暮らすように働く」ために様々な施策を整備している。

<ソフト面の整備>

- 福利厚生等を充実させるために Finc とタイアップし、サーベイを行い改善を行った
- バーエリアで定期的なソーシャルイベント(社内・社外)を開催
- モーニングフルーツを提供する
- 全社員があつまるイヤードパーティーの会場として活用
- デンマーク本国、及び人事と連携し、働き方の改善施策を実施

<ハード面の整備>

- オフィス用アロマディフューザーによる香りの演出 アロマ協会とタイアップ、BoConcept オリジナルアロマを作成
- 専門業者とタイアップし、リラックスをコンセプトに観葉植物を設置
- Bang&Olfsen とのタイアップにより最適な音源、音響装置の設定
- 地下 1 階会議室を Spacemarket との連携により貸し会議室として運用

また、フリーアドレス、ABW (アクティビティ・ベースド・ワーキング) を効果的に実施するために様々な IT 施策を導入している。

- ボーコンセプト・ジャパン全社の保管資料を電子化し、SharePoint 上で管理
- 認証プリントの導入
- Cloud PBX を導入し、固定電話を廃止
- VPN を利用し、どこでも安全に社内ネットワークにアクセス可能
- 全会議室、打合せブースへのモニター設置
- 無人受付
- オフィスと導線を分けた同フロアの別室に最低限の大きさの個人ロッカーを配置

オフィスの概要

執務スペース

通常のオフィスよりもソファエリアの面積が大きく、暮らしのように動くを表現している。メインエリアでは自身のオフィス向け新商品であるトゥールーズを中心にコーディネート。バーテーションで囲われたような家具を向かい合わせることで、オープンでいながらクローズドな囲われた空間を作り出し、少人数での打ち合わせや集中作業に適したコーナーとなっている。



会議室

会議室にはコペンハーゲン、オーフス、ハーニングなどデンマークの都市の名前が付けられている。それぞれの部屋ごとに家具のテイストや機能が異なっており、用途に合わせて部屋を選べる。



バーエリア

ハイカウンターとソファで構成されたバーエリアは従業員の休憩スペースとしてだけではなく、ミーティングスペース、顧客との懇話会などさまざまな用途として使える。無料のコーヒーマシンが設置され、一休みしに来た従業員同士の偶発的なコミュニケーションが生まれる場としても機能している。



ディレクターズルーム

ディレクター(本部長以上の役職者)には個室があり、それぞれのキャラクターに合ったコーディネートがされ、多彩なコーディネーションを強みとするブランドの魅力を表現した空間になっている。ここでもタスクチェアを使用せずソファで構成した部屋もある。



エントランス

明るい雰囲気のエントランスは家の玄関のようにアウトホームな雰囲気の家具とグリーンで訪れた人にライブオフィスのテーマである暮らしのように動くという雰囲気を一目で感じさせる空間となっている。壁で区切られていることで執務スペースへの境界をあえて通り、その先を覗いてみたいという期待感を高めるしかり、アロママチンナーの音も訪れた人を楽しませる。



デリバリー・CSエリア

固定電話の使用が必須となる本エリアでは固定席を採用。自社製品である昇降デスクを採用し、働く姿勢を覚えることで業務効率UPを狙う。



電話ブース

遮音された電話ブースを2か所設置。基本的に自席での通話も許可されているが、周りに聞かれない電話会議などはここで行う。



大会議室 (HERNING)

ボーンコンセプト創業の地であり現在も本社が存在するデンマークの都市ハーニングの名前が付けられた大会議室。壁面の歴史展示及びアクセスサリで美しくデコレーションされたディスプレイがブランドのストーリーとラグジュアリーな空気感を伝えている。



応接室

シックな空間にブルーのチェアが映える応接室。水素気環境の揺らいた灯りがラグジュアリーな雰囲気を醸し出す。特別な商談やVIP対応にも使用できる設置。



総合受付

Ipadによって無人化された総合受付。ブランドの世界観を一目で伝えられるように、ガラス越しの大会議室が見下ろせる場所に位置している。



ロビー

ビビッドな色合いの個性的なデザインのソファがダイナミックな空間を引き立てるコーディネート。ゆったりとした空間で担当者を持ちながら、ボーンコンセプトの世界観に浸ることができるエリア。

